

黎明会の皆さん、こんにちは。日頃から、地域との確かな連携により、市民に求められる福祉保健サービスを提供していただきたいと思います。

黎明会の皆さん、こんにちは。日頃から、地域との確かな連携により、市民に求められる福祉保健サービスを提供していただきたいと思います。

小平市健康福祉部 部長 橋田 秀和

ともなって、今年の1月1日現在の市の人口に占める65歳以上の方の割合は21%に到達し、いわゆる超高齢社会に移行しています。また、国全体の社会構造も大きな岐路を迎え、市を取り巻く情勢も以前とは比較にならないほど厳しくなり、市民の生活や価値観も変化し、個人の生活が中心となつて、地域での人と人、人と社会の繋がりが希薄化しています。孤立による痛ましい事件が繰り返し報道されて、慣れ親しんだ地域で安心している方も少なくない状況となっています。

黎明会は、小平市で長い間、多くの福祉保健事業を展開され、時々のニーズに応える取り組みを進められて、多様でより開かれたサービスへと変化する中にあるまでも、地域とのつながりをしっかりと受け入れ、ボランティアの受け入れ等で、地域とのつながりをしっかりと活かされ、地域に根ざした事業に一層のご協力をとご活躍をいただきますよう、大きな期待を寄せていています。

小平市が求めている方向に歩調を合わせていただいており、地域の財産として、引き続き欠くことはなくチャンスと捉えて、これまで培ってきた豊富な知識や経験を身近な地域で活かし、健長寿を喜びながら主体的に活動されることを大いに期待したいのです。さて、季節は春、新しい年度を迎えて、人々が改めて身近な地域に目を転じ、心と身体の調和から得られる幸福感に価値を見い出す方向へ舵を切って、地域で求められる取り組みを進める絶好の機会です。これまでと違った機軸の活動的な場があちこちの地域で形成され、そうした新たな地域コミュニティの場で多様な担い手が活躍し、地域の自立とつながりが図られるよう、小平市としてもしっかりととした一步を踏み出してまいりたいと思います。

黎明会は、小平市で長い間、多くの福祉保健事業を展開され、時々のニーズに応える取り組みを進められて、多様でより開かれたサービスへと変化する中にあるまでも、地域とのつながりをしっかりと受け入れ、ボランティアの受け入れ等で、地域とのつながりをしっかりと活かされ、地域に根ざした事業に一層のご協力をとご活躍をいただきますよう、大きな期待を寄せていています。



黎明会だより

No.121

編集・発行
社会福祉法人
黎明会

〒187- 東京都小平市
0032 小川町1-485
☎ 042-346-6611
<http://www.reimeikai.or.jp/index.html>

障害者スポーツを推進するにあたり

日本障害者スポーツ協会医学委員長
アジアパラリンピック医学委員長

診療施設 南台病院 院長 陶山 哲夫

活動の自立、心理的な安定を得て社会生活への復帰の促進を目的とする。

基本理念はスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利であるとし、地域で身近に親しむ交流の基盤を形成すること。スポーツを行う者の心身の健康の保持増進・安全の確保。障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行えるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進することになります。

障害者スポーツとの出会いは一九八六年に始まり、二〇〇二年より日本障害者スポーツ協会の医学委員長を拝命し現在に至ります。平成二三年スポーツ基本法が公布されましたので障害者スポーツの概説と今後のあるべき姿・

方向性を述べてみます。

I. 世界と日本の障害者スポーツの歴史

一九四八年英国のグットマン博士が脊髄損傷者のスポーツ大会を行い、一九五二年国際競技大会を開催し、障害者スポーツがリハビリテーション及び社会復帰に有効であると認知された。パラリンピックは一九六〇年第一回ローマ、一九六四年第二回東京で開催され以後現在の隆盛をみており、国際的には競技性を強く求めるスポーツへと変質している。本邦では一九六四年(昭和三九年)東京パラリンピック大会を開催、一九六年(財)日本障害者スポーツ協会が設立、各県持ち回りで全国身

体障害者スポーツ大会を開催し、二〇〇一年知的障害、二〇〇七年精神・内部障害を含めた国体が開催されています。

II. 障害者がスポーツをする意義

一九四三年、英国のグットマン先生は「障害者スポーツを行うと、身体の調子や心の動きを良い状態に保持することができ、これは社会への再適応を助け、また働いている障害者にとってリクリエイトの理想的形式である」としている。障害者は身体に障害を持つために、自分の健康に配慮しスポーツを日常の生活の中に取り入れるべきであります。

III. 障害者スポーツの分類と特徴

1. リハビリテーションスポーツ
(医療体育) : 病院で行う

平成二三年六月文科省よりスポーツ基本法が公布され、スポーツに関する基本理念、国及び地方公共団体がスポーツに関する施策を総合的・計画的な推進、心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活

2. 生涯スポーツ(市民スポーツ)
: 在宅、施設

地域で市民生活をする障害のある人が、心身の健康の維持・増進、心理的安定、楽しみ作り、仲間作り、社会参加(ノーマライゼーションの確立)を目的とする。

3. 競技スポーツ

生涯スポーツの中で強さ、速さ、高さをプレイヤー同士で競い合うことに意義を求め、究極的にはパラリンピックのメダル獲得志向に通じる。パラリンピックの競技の参加条件としては、

- ① 選手が競技のランキングを持つ
- ② クラス分けを受ける
- ③ ドーピング検査を受けること。

IV. スポーツ基本法の制定による期待と効果

今後、障害者スポーツの促進と先進国の一員として国際社会に貢献できることを願ってやみません。





施設間交流研修を終えて

介護老人保健施設けやきの郷

介護職員 五味 愛実

法人内交流研修として『救護施設 黎明寮』に二週間研修に行かせていただきました。

今回老人施設とは異なる「救護施設」という環境に身をおき、最初は戸惑いもありました。というのも、ご利用者が様々な障害はあるものの「介護」をほとんど必要としていないからです。食事・排泄・入浴などの動作を自力で行える方がほとんどで、ご利用者に対する個別対応（通院・服薬管理・金銭対応・苦情対応）などが主です。しかし、だからといって職員の介護や支援が全く無いわけではなく、日常生活の中でも今後、社会に出ることを目指していく場合の支援が大部分になっています。当施設の直接介護と違い、一步下がつて見守るという印象を受けました。

今回の研修の大きな目標として、「多様な障害や課題を持つご利用者のニーズに応じたサービス内容を学ぶ」と設定しました。ご利用者と出来るだけたくさんコミュニケーションを取り、信頼関係を築くのが大切だと思いました。うまく言葉を発することの出来ないご利用者には手を握ったり、こちらが笑顔で接することで相手も笑顔になります。自分なりに非言語コミュニケーションもされたのではないかと思います。

用者には手を握ったり、こちらが笑顔で接することで相手も笑顔になります。自分なりに非言語コミュニケーションもされたのではないかと思います。

障害者就労支援B型のぞみ作業所

支援員 草柳 光広

私は今回の交流研修先に澄水園を希望しました。その理由は、現在我が所属している就労継続支援B型事業所のぞみ作業所は、知的障害を持つ若き方々を対象とした通所施設に対して、澄水園は重度の知的障害を持つ方を対象とした入所施設という違いを体験し、支援員としての自己の資質を向上させたいと思い澄水園を選びました。

二週間の日程でオリエンテーションから始まり、1階、2階のフロア業務、自立支援課で研修させて頂きました。各階のフロア業務では、日勤、早番、遅番、夜勤の変則勤務も体験させて頂き、食事、排泄、入浴介助などを体験しました。中でも食事介助、入浴介助は未経験だったためとても貴重な経験になり、ご利用者一人ひとりに合わせた配慮や声掛けの大切さを学びました。また、高齢者、病虚弱化傾向のご利用者が増えていることに伴い、日常生活の基本的援助に留意して、健康管理に充分配慮し、病気の予防、早期発見、早

期治療を心がけ、医師、理学療法士、看護師、栄養士、生活支援員が情報の共有を図り、連携を密にしていくことの大切さを学びました。

人と人との間で、支援員の仕事は、支援員一人ひとりが、ご利用者の立場に立ち、ご利用者の気持ちを大切にする思いやりの心で接し、支援員の態度、言葉かけ、関わり方一つでより良い人間関係や信頼関係が築けるかどうか、また施設全体のサービスの質にもつながると思いました。

今回の交流研修では、未経験のことが多く大変でしたが、現場に入り色々なことを経験させて頂きました。とても良い勉強になりました。ありがとうございました。

福祉体験学習を終えて

昨年の11月に小平市立第二中学1学年の生徒さんが当会の5つの施設で福祉体験を行いました。この度、全生徒から各施設へお礼の手紙が寄せられましたので一部をご紹介したいと思います。

救護施設 黎明寮

新谷 葦美

福祉体験学習では、お忙しい中、お世話をいただき、ありがとうございました。皆様との交流は、とても楽しく、勉強になり、私たちにとって大切な時間となりました。

私は今回の体験で2つのことを学びました。1つは、人が一人で生きることは難しいということです。人は必ず誰かに支えられて、生きているということです。2つめは、福祉の皆さんのお顔の素晴らしさです。皆さんのお顔を見て、「頑張ろう」という意欲がわいてきました。皆さん一人一人の笑顔には、個性やたくさんの思いがつまっていると感じました。

今回の体験で、社会で大切なことを学ぶことができました。施設の方が優しくしてくれたり、おもしろくしてくださったりして心から

感謝しています。皆さんとの大切な時間を胸にしまい、これから学校生活を頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

あかつきを訪問し、福祉の大変さだけでなく仕事のやりがいを実感しました。また、施設の方々との卓球をどうすれば楽しめるか、少し戸惑いましたが、少しずつ慣れてきて楽しくなりました。利用者の方々に「うまいね」「ありがとう」と言われたときは、すごくうれしかったです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

障害者支援施設 澄水園 星 あゆみ

先日はお忙しい中、私たちのために貴重な時間をつくっていただき、ありがとうございました。

最初のお話や、紙芝居、体験の中でも障がいのある方の「見え方」や「感じ方」、「どう接したらいいのか」など、いろいろなことを教



特養やすらぎの園での一コマ
ご利用者の皆さんと楽しく談話中

感謝しています。皆さんとの大切な時間を胸にしまい、これから学校生活を頑張っていきたいと思います。ありがとうございます。

「どんな障がいのある方でも接し方などをきちんとすれば笑顔がうまれるんだ、すごいなあ」と思いました。今まで何か困っている人がいても、どう対応すればいいのか、分からなかつたけれど、これからは正しく対応したいです。ありがとうございます。

「笑顔」に心を動かされました。方などをきちんとすれば笑顔がうまれるんだ、すごいなあ」と思いました。今まで何か困っている人がいても、どう対応すればいいのか、分からなかつたけれど、これからは正しく対応したいです。ありがとうございます。

えていただきました。合唱でもみんながリズムにのって、楽しくなりました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございます。

先日は、福祉体験で貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。私はペーパークラフトをしながら、おばあちゃんとお話をすると、自分のおばあちゃんと話しているように感じました。出し物をしたときのみなさんが拍手をしてくれて、とてもうれしかったです。たくさんお話をしたおばあちゃんは、海外の思い出を楽しそうに話してくれました。どんな人でも、自分から歩み寄り、話しかけたら仲良くなれることを知り、学びました。このことをこれから学校生活で活かしていくたいと思います。

介護老人保健施設 けやきの郷 皆川 朋奈

皆川 朋奈

福祉体験では、貴重な時間を僕たちの体験のために時間をさいていたのであります。お年寄りの方々と接することができた、素晴らしい体験をすることができました。

「やすらぎの園」では、施設を見学しながらお話を聞いていただき、施設のことをよく理解することができました。また、お年寄りの方々に話しかけられて少し戸惑ったこともありましたが、ハーモニカに合わせて歌を歌つていて中で、話が弾むようになりました。僕たちの歌を聴いてくださつた後、拍手をもらつたときはとてもうれしくなりました。折り鶴を渡し、「ありがとう」と言われたと

テーマ【肥満と消化器疾患】

救護施設 あかつき サービス第二課長 吉岡 春美

地域包括支援センターが主催する、平成24年度第2回市民公開講座が、去る2月6日水曜日に開催されました。

2回目の今回は、黎明会南台病院消化器内科部長の勝見直也先生を講師に迎え、「肥満と消化器疾患」をテーマに、肥満とメタボリック症候群についてそのリスクや様々な疾患との関わり、予防・早期発見・早期治療の有効性等、地域の皆様の身近な問題として、とても興味深い内容のお話しをしていただきました。

初めてに肥満と肥満症との違い、肥満のタイプやメタボリック症候群の診断基準、肥満に関連する病気の数々、肥満が病気を引き起こすメカニズム等についてお話しがありました。その後、肥満に関連する食道・胃疾患・大腸疾患・肝臓疾患・胆囊疾患・脾臓疾患など様々な内臓疾患との関わり、症状・原因・治療法・予防について詳しく説明がありました。

最後に、肥満の内科的治療法として、運動療法や栄養療法、行動療法、薬物療法、今日からできる取組みなどを教えていただき、質

疑応答も含め、大変好評の内に終えることができました。

この市民公開講座は毎回ご好評をいただいており、特に今回は冷たい雪の舞い落ちる中、会場が満杯となる100名近い方々にお越しいただき、地域の皆様の期待の高さを感じました。

毎回お願いしているアンケート結果からも、「参考になった」「理解しやすいお話しでした」との褒めの言葉をいただき、また講座のテーマについても沢山の希望を寄せていただき、今後の参考にさせていただきました。



会場は満席でした



趣味を活かしたボランティア

琴美会 代表 竹元 美恵子

ふれあい短信

私たち、大正琴を趣味としている「琴美会」と云う20名程の小さなグループです。その中の半数がボランティア活動に賛同し、平成4年より活動開始し、現在に至っております。

行く先は、主に老人施設がほとんどですが、時には、病院、保育園や新年会の席などにお声がかかれば小平市内、そして市外にも向かい私たちと皆様との時間を楽しむ過ごさせていただいております。

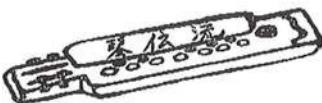
ここで大正琴の由来を述べさせていただきます。「大正琴」の名の通り、大正元年に、名古屋市の森田吾郎さんという方が、和楽器の二弦琴をタイプライターをヒントに、誰でも演奏できる楽器として、発明したのが始まりです。今では、改良を重ね、ソプラノ、アルト、テナー、ベースと四種類の楽器によるアンサンブルを楽しむ事が出来ます。

大正琴に出会ったことのない方、機会がありましたら是非演奏会に出向き、アンサンブル演奏を耳にされると、きっと感動を覚えることと思います。エッ！これが

ボランティアに行くには、曲選びをし、昔なつかしく皆さん心にある口ずさみやすい曲や季節感のあるもの、童謡などを選ぶようになります。

曲選びは、会員が順番で選び練習をします。歌集を用意し利用者さんに手渡し歌っていただきます。演奏中に身体をゆらゆらさせ調子をとる人、時には涙する人、「大きな声で今日は楽しかった。又来て下さい。」など、嬉しい声に励まされ、次への活力をいただいての帰宅。

一昨年は大正琴ができ、100年に当たり、日本武道館で全国大会が開催されました。ゲストに谷村新司さんをお迎えし、楽しいトークとあの大きな武道館での生の歌声は、本当に素晴らしい鮮明に眼に、心に残りいい思い出になりました。私たちも年を重ねてまいりましたが、まだまだ頑張れそうですので、一人でも多くの方々に、大正琴を楽しく聞いていただけますよう努力してまいります。



～定年を迎えて～

障害者支援施設 澄水園

施設長 吉田春夫

早いもので私も定年を迎える事となりました。諸先輩たちが定年で去つていくのを他人ごとに感じていた頃が懐かしく、今になると感慨無量という心境です。鵜目栄八前理事長に面接を受けたあの暑い夏の日が昨日のように浮かんできます。本部経理係・澄水園指導員・黎明寮作業係長・あかつき指導課長・給食センター業務課長・のぞみ作業所施設長・黎明寮施設長・やすらぎの園施設長・澄水園施設長と色々な経験をさせて頂きました。

私がこの道に入ったのは、学生時代に養護施設にボランティアとして行っていたのがきっかけで、東社協の紹介でお世話になりました。当時本部も澄水園も北区赤羽にあり、16年過ごしました。今にも崩れそうな母子寮跡の職員寮に暫くお世話になりました。鵜目理事長が明治大学柔道部やレスリング部の学生の面倒をみていたこともあり、4～5名の学生が同じ寮に入っていました。敷地内に仮設道場もあり、早朝稽古などもやつていて、その中からオリエンピックに出場した方々もいました。

運動会などでは澄水園のご利用者と成りました。諸先輩たちが定年で去ついくのを他人ごとに感じていた頃が懐かしく、今になると感慨無量という心境です。鵜目栄八前理事長に面接を受けたあの暑い夏の日が昨日のように浮かんできます。本部経理係・澄水園指導員・黎明寮作業係長・あかつき指導課長・給食センター業務課長・のぞみ作業所施設長・黎明寮施設長・やすらぎの園施設長・澄水園施設長と色々な経験をさせて頂きました。

小平に来て25年になりますが、ここには「本部事務所・やすらぎの園」も新しく生まれ変わり、病院を始め、ありとあらゆる福祉サービス事業が揃っています。これらの福祉資源を地域の方々に縦横無尽に利用して頂く事が、黎明会の使命だと考えます。黎明会という福祉総合大学校(?)に40年在籍して思うことは、「他者のために尽くす、そこに生命の充実がある」という事を学びました。黎明会を去るにあたり、利用者の皆様、職員の方々のご健康と黎明会の益々の飛躍を心よりお祈り致しました。

平成25年3月31日、平成24年度の定年退職者として次の8名の職員が黎明会をあとにしました。
皆さん黎明会の発展に精励されました。これまでのご尽力に敬意を表し、こちらにご紹介します。これからも健康に留意され素敵なお人生をお過ごし下さい。

平成24年度 定年退職者



氏名	現職種	採用日	勤続年数
吉田春夫	澄水園 施設長	昭和47年8月18日	勤続40年
都丸繁	ゆとりあの郷 総支配人	平成19年4月1日	勤続6年
春藤純久	南台病院 検査科長	平成21年1月1日	勤続4年
染谷正男	けやきの郷 介護第2係長	昭和59年4月1日	勤続29年
坂田恵子	南台病院 栄養主査	平成17年6月15日	勤続7年
大島洋子	南台病院 准看護師	昭和56年6月15日	勤続31年
三井田鶴子	けやきの郷 介護職員	昭和61年5月19日	勤続26年
前田邦子	南台病院 介護職員	平成15年8月1日	勤続9年



皆さん真剣！技術演習

超高齢化社会突入を目前にして、お年寄りも体の不自由な人も誰もが住みよい社会にするために、支え合いの気持ちがより大切です。その支え合い社会は介護力が基盤となります。

法人として、ごとくの会ホームヘルパー通信講座に協賛し講師派遣・技術演習・実習指導を平成24年10月から6ヶ月間取り組んできました。ようやく3月24日に19名の修了式を迎えることができたところです。実技指導では、もう少し技術を覚えたい、実際に使えるように訓練したいなどの思いから、自ら率先し利用者になったり、あるいは技術の演技者になりました。室内は研修生の活気と熱氣・笑顔があふれていきました。ご紹介

した写真はその一コマです。
次年度からは、介護初任者研修と名称が変わります。時間数が増え、試験制度と内容は変更になりますが、目指すことは、介護職のキャリアパスへの仕組みが制度化され、専門性が期待でき、将来介護福祉士を目指す道もよりシンプルになります。家族や自分のために役立つ介護を目指し指導体制を整えサポートしてまいります。

お知らせ

◆平成24年度 第3回理事会・評議委員会

平成24年12月6日16時から当会黎明ホールにて、平成24年度第3回理事会・評議員会を開催しました。会は理事長の挨拶で始まり、平成24年度収支補正予算(案)について審議し、全会一致で承認されました。(又吉)

施設リポート

■狂言鑑賞会

去る平成24年11月27日、ゆとりあの郷、ゆとりあホールに於いて「狂言鑑賞会」を開催しました。

狂言師の和泉元彌さん、和泉淳子さん、三宅藤九郎さんらが出演巧みな演技で、入居メンバーを含む約100名を魅了してくれました。今回は、NPO法人りすシステム



和泉元彌さんらが出演

■日帰り旅行

去る1月25日、黎明寮では今年度最後となる日帰り旅行に行きました。当日は天気にも恵まれバスからの景色を楽しみながら昼食場所である横浜中華街へ。ミシュランガイドにも紹介されたレストランで本格的な中華料理をいただき

ムの松島相談役が、ゆとりあ郷の施設見学会を兼ねて、企画してくださいました。舞台は最初に三宅さんと淳子さんが狂言の歴史や用語について実際に交えながら分かりやすく説明

劇。声を出して笑って、一緒に狂言の舞台をつくってほしい」と呼びかけておりました。続いて「棒縛り」を上演。主人に棒縛りと後ろ手縛りにされた2人の召使が主人の裏をかい酒を飲むという話で、元彌さんや三宅さんらがユーモラスに演じ、観客の笑いを誘いました。伝統芸能の本物に触れたとても楽しいひと時となりました。



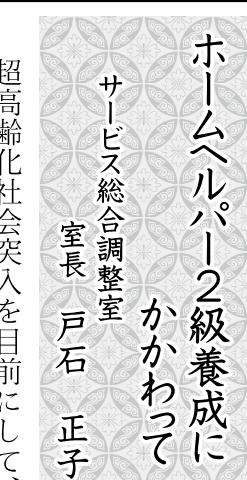
和泉元彌さんらが出演

■ボウリング大会

去る1月5日(土)、のぞみ作業所で恒例のボウリング大会を久米川ボウルにて行いました。

毎年、のぞみ作業所では新成人を迎えるご利用者の方が始球式を行いゲームがスタートします。今年は男性3名、女性1名の方が成人式を迎えました。最高得点は、女性ご利用者のトータル294点でした。その後は、作業所で厨房特製のカレーピラフにクラムチャウダー・チキン・ピザなど、ご利用者の方々のご希望を取り入れた食事を戴きました。暖かくて美味しいご馳走は大好評でした。

(齊藤)



(川倉)

ました。普段ではなかなか味わうことの出来ない料理に皆さんお腹も心も大満足。その後、山下公園へと移動し横浜港をクルージング。海の波が揺り籠のようにも感じ、心癒される旅行となりました。

